

平成22年度財団法人長崎平和推進協会事業報告書

I 平和推進事業

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与し、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と永続性のある事業運営を図りつつ、平成22年度は次の事業を実施した。

(1) 発刊事業 (1,825,695円)

① 会報「へいわ」の発行 (1,356,870円)

協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きをとらえ、会員に情報を提供するとともに会員相互のコミュニケーションを図るため、機関紙を発行した。22年12月発行分からは、会員に限らず不特定多数の方が協会ホームページから会報等を閲覧できるようにした。

(規格等) 年4回 (23年3月末現在129号)

A4判 8ページ 1回当たり 3,000部

② ブックレット「平和のあゆみ」の発行 (117,600円)

協会発足当初からの平和意識高揚のための取り組み、活動状況、実施状況等をまとめたブックレット「平和のあゆみ」を発行した。

(規格等) A4判・12ページ 年1回 1,000部

③ 広報活動費 (351,225円)

情報ボックス発送費、会員勧誘リーフレット作成等に係る経費。会員勧誘リーフレットは、図書販売コーナーでも購入時に配布した。また、協会ホームページでは、会員募集をどのページからでも見られるように工夫した。

○情報ボックス

年12回発行 役員、評議員、各部会員、平和案内人などへ郵送

(2) 啓発事業

(978,548円)

① 平和学習費

(219,978円)

被爆の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学校などに被爆体験講話を実施する際の申込みに対する承諾書郵送等に係る諸経費。

<実施学校・団体>

区分	講話	人数
18年度	986件	133,761人
19年度	1,060件	140,814人
20年度	1,192件	159,880人
21年度	1,282件	166,312人
22年度	1,333件	165,859人

<22年度内訳>

区分	講話	人数
小学校	552 (71) 件	54,233 (21,627) 人
中学校	429 (36) 件	58,280 (11,046) 人
高校	240 (9) 件	46,522 (3,206) 人
一般	112 (26) 件	6,824 (2,769) 人
計	1,333 (142) 件	165,859 (38,648) 人

() 内は、市内の参加団体数。内数表示

② 原爆被災写真パネル・ビデオの貸出状況

<22年度内訳>

区分	パネル		ビデオ	
	件数	セット数	件数	本数
小学校	3	3	2	3
中学校	2	2	26	54
高校	1	1	15	30
一般	14	14	21	47
計	20	20	64	134

③ 講演会の開催

(474,714円)

協会の設立趣旨に沿い、広く市民に世界恒久平和や核兵器廃絶についての認識を深めるために毎年実施。22年度は朝鮮半島情勢に詳しい辺真一（ピョンジンイル）氏の講演会「だれでもわかるコリアレポート～朝鮮半島の現在・未来」を開催。

開催日：平成23年1月30日（日）

場所：長崎市平和会館ホール

入場者：約400人

④ 国連軍縮週間行事 (283,853円)

昭和53年5月23日、第1回国連軍縮特別総会において、国連の創立記念日である10月24日から1週間は軍縮の世論を高めるため「国連軍縮週間」と定め、世界各国でいろいろな行事が行われている。

長崎市と協会は、昭和58年から市民の平和意識の高揚と平和問題への認識を高めるために各種の催しを行っている。

日 程：平成22年10月30日(土) 10:00~13:00

場 所：原爆資料館前階段下広場

内 容：戦時食、環境にやさしい紙風船、折り鶴、綿菓子、ポップコーン、原爆被爆写真パネル展、ミニコンサート、朗読等のコーナーを設置した。

⑤ 「戦争・原爆被災展」の開催

原爆の問題について、触れる機会があまりない県外の方々に被爆者の体験講話を交え、被爆の実相や核兵器の恐ろしさを知ってもらい、長崎市民の核兵器廃絶への願いを伝えるため、県外の2都市において、長崎市及び当協会の共催で開催した。

<平成22年度開催都市>

千葉県 松戸市	開催時期	6月26日(土)~7月11日(日)(講話は7月11日)		
	会 場	松戸市立博物館		
	見学者数	3,276人	体験講話	一般1件(延べ93人)
鹿児島県 鹿児島市	開催時期	8月20日(金)~8月25日(水)(講話は8月21,22日)		
	会 場	鹿児島市中央公民館		
	見学者数	2,377人	体験講話	一般3件(延べ220人)

※このほか、9か所の自治体等からの依頼により、継承部会員を派遣した。

派遣先：大阪府八尾市、東京都八王子市(都立高校)、宮崎県日向市、福島県いわき市、鳥取県鳥取市(非核協実行委)、埼玉県和光市、大分県大分市(地区の団体)、神奈川県藤沢市、千葉県浦安市

(3) 調査研究費 (39,980円)

当協会が後援している「2020 核兵器廃絶広島会議」に事務局員を派遣し、核問題の解決や核兵器廃絶に向けて、情報収集及び意見交換を行った。

日 時：平成22年7月28日(水)

場 所：広島国際会議場「ヒマワリ」ほか

主 催：広島市、平和市長会議

(4) 育成事業 (4,915,633円)

① 部会活動費 (700,246円)

市民の幅広い参加を求めながら、会員が市民とともに平和意識の高揚を図るために部会活動を行った。

- (ア) 継承部会 継承事業として被爆体験講話を担当の他、市民対象の碑めぐりなどの実施 (129,698円)
- (イ) 写真資料調査部会 被爆写真の収集・分類整理を担当 (200,000円)
- (ウ) 国際交流部会 文書の翻訳、外国人来訪者の通訳、案内を担当 (200,000円)
- (エ) 音楽部会 音楽会の企画を担当 (74,888円)
- (オ) ボランティア活動傷害保険料他 (95,660円)

② アジア青年平和交流事業 (503,800円)

アジアと日本の若者が国際交流を通して平和を学ぶ同事業を、設立20周年を記念して平成15年から始め、21年度までに7回、当初3年は韓国(釜山)との交流を図り、平成18年からはマレーシア(クアラルンプール)と交流している。19、20年度はシンガポールも併せて訪問した。22年度は、追悼平和記念館の国際交流事業と合わせた形で、今後の交流の在り方も含めて、これまで訪問した韓国、マレーシアの若者を迎え、日本の若者とアジアの若者が、お互いの国の文化・歴史を学び、現地の人々との意見交換や交流を通して学ぶことにより、相互理解を促進し、平和意識の向上を図った。

日 時：平成22年11月19日(金)～24日(水)

場 所：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館等

参加者：4名

③ 平和事業支援費 (411,260円)

協会の活動趣旨と一致する音楽会、シンポジウム及び外国人弁論大会などの活動に対して助成を行った。

- (ア) 「ながさき平和大集会」共催金等 (50,420円)

開催日：平成22年6月13日(日)

会 場：長崎原爆資料館ホール

主 催：ながさき平和大集会実行委員会

- (イ) 「第48回 原爆忌文芸大会」賛同金等 (10,315円)

開催日：平成22年8月1日(日)

場 所：長崎ブリックホール会議室

主 催：長崎国際文化協会

- (ウ) 「～語り合おう in Nagasaki～外国人による日本語弁論大会」共催金等

(150,525円)

開催日：平成22年11月14日(日)

会 場：長崎外国語大学ホール

主 催：外国人による日本語弁論大会実行委員会

(エ)「長崎平和音楽祭 vol. 26」共催金 (200,000円)

開催日：平成23年3月19日(土)

場 所：長崎原爆資料館ホール

主 催：長崎平和音楽祭実行委員会

④ 秋月 Grant (501,365円)

被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業等を創設する際の助成制度として、協会設立20周年時(平成16年)に前身の制度である「ナガサキ平和創設 Grant」から、当協会創設者の一人である秋月辰一郎氏の名を冠した同制度を開始した。

(ア) タイ国内の原爆展示会、講演会 (200,000円)

非核特使の委嘱を受けた計屋氏が広島市の被爆者らと共に、個人的につながりのあるタイのチェンマイをはじめ大学、日本人学校等で原爆写真展を行い、また被爆体験講話も行うもの。

実施時期・場所 平成22年6月10日～8月26日、

平成23年1月5日～2月19日

タイ国チェンマイ市内

(イ) 長編映画ヒロシマ・ナガサキダウンロード継承プロジェクト

(200,840円)

海外で生活する2人の日本人青年が米国に移住した広島長崎の被爆者を米国西海岸を南下しながら訪問し、被爆体験の話を聞くという内容の2010年竹田信平氏作の長編ドキュメンタリー映画「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」をアメリカ各地で上映会を開き、参加者と意見交換や講演などを行う。

参加者 約500名

実施時期、場所 平成22年8月1日～12月31日

東京、ワシントン、ニューヨーク

(ウ) ピース・ピースカップ参加事業 (100,525円)

広島・長崎両市の少年野球の子どもたちからなる選抜された4チームが広島市につどい、交流試合とともに、平和公園での献花、広島平和記念館見学、被爆ピアノの物語及び演奏などの平和学習を行ったもの。

実施時期 平成22年10月22日

実施場所、参加者数 広島市内、55人

⑤ 平和案内人育成事業 (343,985円)

平和案内人利用数が増加する中、平成19年度以来3年ぶりに4期生の育成を行った。全15回の講座に約50人の応募があり、12回以上出席された方のうち、43名が案内人として登録していただき、本年5月から活動を開始している。

募集期間 平成22年9月1日～11月1日

育成講座 平成22年11月27日～23年3月1日(全15回)

講座内容 被爆体験講話、長崎原爆被害の概要、資料館・祈念館の概要、放射線について、ガイドの実習(資料館・祈念館内、平和公園周辺の被爆建造物等)など。

⑥ 平和案内人派遣事業 (2,454,977円)

1期生41名、2期生32名、3期生28名の計101名の平和案内人を被爆建造物、原爆資料館、追悼平和祈念館等のボランティアガイドとして派遣した。

	利用件数	利用者数	ガイド活動人数(延べ)
常駐ガイド	2,309件	10,714人	1,335人
資料館予約ガイド	97件	3,819人	393人
碑めぐりガイド	252件	14,303人	1,417人

主な支出費目	交通費	1,373,000円(協会負担)	郵送料	419,850円
	印刷製本費	417,532円	消耗品他	88,110円
	ボランティア保険	29,960円		
	派遣管理ソフト新PCインストール費用	126,525円		

(5) 平和推進事業にかかる人件費 (16,698,178円)

(6) 平和推進事業にかかるその他の諸経費 (2,387,664円)

(7) 平和案内人派遣システム改修支出 (693,000円)

(8) システム改修資金積立資産取得支出 (500,000円)

(9) 育成事業実施積立資産取得支出 (550,000円)

(10) 次期繰越額 (0円)

II 長崎原爆資料館運営事業

長崎市から原爆資料館の運営に係る業務（長崎原爆資料館観覧料徴収・受付案内業務）を受託し、当法人の目的である、原爆被爆の実相、核兵器の脅威を伝え、もって核兵器の廃絶、世界恒久平和を実現するため、当該分野における基幹的施設である原爆資料館の運営に参加し、原爆資料館を訪れる世界の多くの人々に平和意識の醸成及び高揚を図る。

事業費	内容
14,997,242円	嘱託員3名分、臨時職員5人分の人件費等

（委託料15,007,000円、返還金9,758円）

※（参考）原爆資料館入館者数

年度	入館者数
20年度	670,523人（月平均55,877人）
21年度	674,616人（月平均56,218人）
22年度	681,193人（月平均56,766人）

III 長崎原爆資料館図書資料収集整理事業

長崎市から原爆資料館図書資料収集整理に係る業務（長崎原爆資料館図書資料整理業務）を受託し、当法人の目的である、原爆被爆の実相、核兵器の脅威を伝え、もって核兵器の廃絶、世界恒久平和を実現するため、当該分野における基幹的施設である原爆資料館に当法人の研修を受けた司書を配置し、原爆資料館の図書室における原爆・平和に関する図書・資料の整理、選定を行い、広く一般市民や、来館者に対し平和や原爆被爆に関する情報の提供を行い、より多くの人々の平和意識の醸成及び高揚を図る。

事業費	内容
4,733,962円	嘱託員2人の人件費等

（委託料4,763,000円、返還金29,038円）

IV 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

国（厚生労働省）から国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営に係る業務（国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業）を受託し、当法人の目的である、原爆被爆の実相、核兵器の脅威を伝え、もって核兵器の廃絶、世界恒久平和を実現するため、追悼平和祈念館を運営し、多くの来館者へ原爆死没者への追悼の念と平和を祈念する心の涵養を図り、また被爆関連資料・情報の収集や提供、海外原爆展、被爆医療を中心とした国際協力・交流事業を実施し、広く世界の人々へ核兵器の廃絶と平和意識の高揚を図る。

事業費	内 容	
198,454,778円	○委託費（保守委託料他）	70,787,699円
	○人件費（14名分）	68,285,335円
	○賃借料（システム機器借上他）	25,281,994円
	○光熱水料費	13,471,183円
	○その他	20,628,567円

（委託料226,201,000円、返還金27,746,222円）

V 収益事業

事業運営に必要な自主財源を確保するため、平和に関する出版物等の刊行及び販売を行った。
(商品売上: 18,961,003円)

1 書籍

	書籍名	販売数	売上高(円)	販売単価(円)
1	ながさき原爆の記録	2,324	1,154,100	450/500
2	原爆被爆記録写真集	894	885,400	900/1,000
3	長崎原爆資料館(児童図書)	2,380	709,680	270/300
4	トランクの中の日本	156	409,500	2,625
5	この子を残して(文庫)	444	349,872	788
—	その他(162点)	—	6,958,305	—
	合計	—	10,466,857	—

2 その他の販売品目

	商品名	販売数	売上高(円)	販売単価(円)
1	Tシャツ(28種)	2,173	3,258,300	1,350/1,500
2	キーホルダー ①祈念像	1,365	409,320	270/300
	②ハト	503	251,350	450/500
3	DVD ナガサキの少年少女たち	170	624,750	3,675
4	DVD 広島長崎における原子爆弾の影響	73	367,920	5,040
5	クリアホルダー(4種)	1,669	333,380	180/200
6	ストラップ(4種)	543	271,500	450/500
7	マグネット 平和記念像	500	149,850	270/300
	平和公園	201	60,270	270/300
8	ピンバッチ	787	195,400	225/250
9	DVD ヒロシマ ナガサキ	58	170,520	2,940
10	ミニタオル(4種)	660	164,850	225/250
	その他(48種類)	—	2,236,736	—
	合計	—	8,494,146	—

VI その他管理運営に係る費用

(4,492,430円)

法人の事業を管理するため、毎年度経常的に要する各委員会、理事会、評議員会等に要する費用